

三河地方における戦後新教育の実践 — 「トライ・アウト・スクール協議会記録」をもとに —

Practice of New Postwar Education in the Mikawa Region

— Based on “Try Out School Council Record” —

酒井 宏明 SAKAI Hiroaki

(人間発達学部)

第二次世界大戦後の愛知県における新教育の実態は、軍政部の教育改革は強力なものであり、愛知県当局の姿勢も積極的に新教育を推進していくものであった。そして、愛知県は軍政部の指導のもとに、新教育推進の中核となる実験学校を指定し愛知県実験学校協議会を組織し、この組織を通して各実験学校に新教育を徹底させていくのであった¹⁾。

本論文では、『昭和二十二年六月以降トライ・アウト・スクール協議会記録（岡崎市立六名小学校所蔵）』をもとに、新教育推進の大きな役割を担った愛知県実験学校協議会の実態とりわけ愛知県下の新教育を実践推進していった県下各地区実験学校協議会での授業実践に焦点を当てていきたい。

この協議会記録には西三河地区実験学校協議会での公開授業の指導案や協議会の記録が綴られており、これらの資料によって、当時の授業の内容や新教育実践の質を読みとることが出来る。この協議会記録の授業指導案に視点を当て整理することで、三河地方の新教育における授業実践の実態を明らかにしていきたい。

1 愛知県実験学校協議会

占領軍の指導によって、新教育のための実験学校（トライ・アウト・スクール）は、全国各地に生まれていった²⁾。愛知県においても、多くの学校が実験学校として指定を受け、新教育の実践は、それらの学校の研究を中心として進められていくのである。実験学校は、昭和22年6月6日愛知軍政部および愛知県によって41校が指定され、占領軍の指導の下に愛知県実験学校協議会を組織するのである。

実験学校協議会は県下の実験学校がすべて参加した愛知県実験学校協議会と、県下を尾張西地区・尾張東地区・西三河地区・東三河地区の4地区に分け、それぞれの地区別に行った地区実験学校協議会とがあった。愛知県下の実験学校は、それぞれの地区実験学校協議会（以下地区協議会と略す）を中心として活動していくのである。

昭和22年6月16日の幅下小学校での県実験学校協議会後、各地区でそれぞれ地区協議会を開催していった。尾張東地区は同月17日に名古屋市立高蔵小学校で、西三河地区は同月30日岡崎市立梅園小学校で開催された。第1回の地区協議会以後、地区毎に月1回

程度の協議会を持ち、新教育の研究を進めていくのである。西三河地区は昭和22年6月6日付で、10校の実験学校が指定を受けた³⁾。その後昭和23年7月15日に、7校が第2次の追加認定を受けるのである⁴⁾。これらの実験学校を中心として西三河地区の新教育を推進していくのである。

2 昭和22年度西三河地区実験学校協議会

(1) 第1回西三河地区実験学校協議会

昭和22年6月30日梅園小学校において、西三河地区の実験学校10校は、西三河地区実験学校協議会を結成した。協議会で県視学官の細部にわたる指導を実験学校は受容していくのである。各実験学校において新教育を進めていく過程でさまざまな問題が出て来たであろう。それらの問題を具体的に協議したのは、第2回地区協議会からであった。

(2) 第2回西三河地区実験学校協議会

第2回地区協議会は、八ツ面小学校において、開催予定より1か月余り遅れて、昭和22年10月8日に開かれた。熊谷視学官は、この協議で次のような指導を行っている⁵⁾。

敗戦後の民主教育は単なる流行になるな。トライアウトスクールも形式となるな。学級経営に於いて民主教育を徹底する事に頭を置け。

実験学校の研究発表は、平坂中部小学校「場の研究について」、明治第四小学校（現米津小学校）「動的環境構成への探究の一端」、六名小学校「本校の自由研究について」、幸田小学校「実態調査について」の4校であった。この協議会では、次回の協議会の持ち方について話し合われた。また、授業参観をし、授業の話し合いや発表の協議をすることも決まった。最後に、熊谷視学官の研究発表は研究の効果反省がよい、児童の自発活動はよいが指導面が引込むので今後の先生のあり方を考えるように、という指導がありこの協議会を終えた。

(3) 第3回西三河地区実験学校協議会

第3回地区協議会は、昭和22年11月24日足助小学校において行われた。そこでの熊谷視学官の指導講話は次のようであった⁶⁾。

足助小学校は敗戦国を忘れるような明るい学校だ。トライアウトスクールに認定された時は大きな抱負があった事と思う。その意味で頼む。

授業は1時間見たが、これによって方針が表われている点が見える。発表は特殊の学校2、3でよい。共通の研究問題がほしい。これが県下全体の研究題目としたい。このように、新しい教育の考えを指導講話によって積極的に各実験学校へ浸透させていったのである。また、実験学校は確実にそれを受け入れ、実践に移していったのである。たとえば、前回の地区協議会で熊谷視学官は教育環境について述べたのであるが、それを受

けて足助小学校は教育環境の構成について発表している。教育環境の中でも壁教育について「新教育に於いて直観の原理は第一に掲げられるべきものである。視覚教育の一として壁教育を教育的に経営し教育効果を十全に挙げる。」と述べている。

(4) 第4回西三河地区実験学校協議会

第4回地区協議会は、昭和23年1月30日に矢作南小学校で開催された。この協議会では、研究協議題の一つにしほり「コミュニティ及びコミュニティスクールの具体的研究」というテーマで話し合われた。これらの発表に対して、熊谷視学官はコミュニティスクールについて次のように指導した⁷⁾。

コミュニティスクールは「郷土社会」と日本語に訳す。

〈コミュニティスクールの定義〉

- ①人々の集団 ②団体として行動する事が出来る ③互いに交通しうる場所を示す
- ④統一の意識を有す ⑤共通の伝統を有す ⑥共通の奉仕施設を有す

〈コミュニティスクールのねらい〉

社会も学校も混ぜん一体として、教育効果をあげるよりよい郷土社会をつくる。

コミュニティスクール以外にも、壁教育について、人間の幸福についてといった指導が、熊谷視学官からあった。

(5) 第5回西三河地区実験学校協議会

第5回地区協議会は、昭和22年度最後の地区協議会で、昭和23年2月12日に幸田小学校で開催された。この地区協議の開催だけは、愛知県教育部長より指示があり、その期日も軍政部によって定められた。また、この協議会でそれぞれの実験学校に、昭和22年度の研究総括発表や研究発表回数（発表題目付記）及び参観者数（他校の参観者数並びに自校職員の他校への参観者数）について報告を義務づけている。この協議会で熊谷視学官は次のようなあいさつをしている⁸⁾。

昨年認定以来の諸氏の努力により、予期以上の成績効果をあげたと思う。トライアウトスクールは、最後までやり抜くことであるが、次年度は実験学校2年生となるのであるが、堅実な歩みを進めて頂きたい。自主的に地区別協議会も開いて貰いたい。回顧してみて特殊の学校ではなかった。自然構成にまかせられた学校であった。41校の認定校は県下に細胞組織的に配布され、其の実績は周辺にも成果を浸透した。これで実験学校の仕事は終わったのではない。次年度の準備に取りかかって頂きたい。

小学校の教育は敗戦後飛躍的に向上した。民主化教育は軌道に乗った。これは軍政部の良き指導と社会人の協力による。小学校の教室は明るくなった。

さらに熊谷視学官は、教育について軍政部が指摘することについて、次のように述べている⁹⁾。

①教室の従来の名残あり。師の活動が多すぎる。

児童が引きずられている。児童にグループ活動学習をさせよ。師は影武者となれ。討議法がよろしい。

②集積的記録の必要がある。児童の観察記録をとれ。

③P・T・Aについては、いまだ後援会組織の名残りあり。P・T・Aは教育に対しての責任がある。教育内容にまで責任を持て。そして政治的ボスの存在に利用されるな。以上のような指導によって、昭和22年度最後の地区協議会を終えるのである。

昭和22年度の地区協議会は、県の指導が強くあらわれている。その指導の内容は、民主教育の考え方、単元の問題、コミュニティスクールのねらい、壁教育についてというように、新教育を推進していく上で、重要なものばかりであった。また、実験学校もそれを受けて、真しに新教育の研究を進めていったのである。しかし、県実験学校協議会でも新教育について、軍政部から多くの指導があったことを考えると、昭和22年度の実験学校は、新教育とは何かを学ぶことだけで精一杯であったようである。昭和23年度以降になると地区協議会に対する県や軍政部の指導はほとんどなく、地区協議会は、実験学校によって自主的に進められていくのである。

3 昭和23年度西三河地区実験学校協議会

昭和23年度地区協議会は、昭和23年5月28日梅園小学校での西三河実験学校打合せによって活動が開始された。出席者は西三河地区実験学校の校長だけで、そこで昭和23年度の研究計画について話し合いが持たれた。その話し合いの結果、学年を中心とした研究を進めていくことが決まった。つまり、昭和23年7月には挙母中央小学校で1年生を中心とした研究発表をするというように、10月八ツ面小学校3年生、11月足助小学校2年生、1月平坂中部小学校5年生、昭和24年1月幸田小学校4年生、同年3月明治第四小学校は6年生というように決められた。また、実験学校全部が研究会を開くということから、矢作南小学校では養護学級、六名小学校では教頭、梅園小学校ではP・T・Aを対象とした研究会を持つことになった。ここで、第二師範附属小学校は独自の研究会を持つということで、それを実験学校の地区協議会に充てるということになった。

昭和23年度の地区協議会には、県や軍政部からの出席はほとんどなく、協議題はそれぞれの学校での問題点を持ち寄って話し合われた。では、協議会当日行われた特設授業や一般公開授業はどのようなものであったか、各協議会ごとに指導案を一つ取り上げて見ていくことにする¹⁰⁾。

(1) 第1回西三河地区実験学校協議会

昭和23年7月13日1年生協議会は挙母中央小学校で開催された。1年生の授業参観で行われた授業の指導案は次のようであった。

第一学年梅組学習指導案 (指導者 大川)

一日 時 昭和二十三年七月十三日十時三十分 — 十一時十五分

二題 材 水遊び 4/6

三夏期に於ける子供の生活中最も親しみやすい「水あそび」から極く簡単な童謡をとり
入れ学習に興味を覚える様にする

朗読を十分に読みとる態度を養い童謡の心持ちを味わわせる。又物の見方感じ方を学ばせる

四指導計画

- ・ 第一次 水遊びの体験を発表させ話し方聴き方の指導をする
- ・ 第二次 水遊びのささ舟を作り数量的観念を養いたい
- ・ 第三次 水遊びに関連した唱歌、遊戯をなし情操を豊かにしたい
- ・ 第四次 (本時) 水遊びについての童謡をよみとらせることにより物の見方感じ方を学ばせる
- ・ 第五次 水遊びを実施して学習と遊びを直結させたい

五指導過程

- 一、水遊びの生活経験を自由に話させる
- 一、しゃぼんだまの歌唱遊戯 (既習)
- 一、しゃぼんだまの絵をみせ読ませる
- 一、どんな情景であるか思い思いに発表させる
- 一、全文書写正しい姿勢で丁寧に書く習慣をつける
- 一、しゃぼんだまの体験を思い出させ色をぬらせる事により色彩に対する観念を養う

六評 價

研究協議会では次のことが話し合われた。

- ・ 授業者の反省
 - 授業について おさえつけた様な感じがした
 - グループ学習・個人指導が出来なかった
- ・ 質疑討議
 - ・ 当校の単元設定について
 - ・ 単元の性格について
 - ・ 当校単元の展開について
 - ・ 特殊児童の指導について
 - ・ 本会の今後のあり方について

(2) 第2回西三河地区実験学校協議会

昭和23年10月2日八ツ面小学校に於いて3年生の実践を中心とした研究協議会が開催された。そこでの特別授業の学習指導案は次のようであった。

特別学習

第三学年一組学習指導案（指導者 東原）

学習単元 いききのせいかつ 35/44

要 旨

私たちの住んでいる西尾町の交通の状態はどうだろうか。また、土地によって方法は違うか学習させ、その過程に於いて知識・知能・技能・態度等多方面的な生活陶冶をする。

姿 態

何でも興味をもつこの年頃の児童には、乗りものは羨望的である。夏休み中すべての児童は、親・姉妹・弟妹と共に海に山に都会に親戚にいて。その嬉しさが「夏休みの反省」の学習に於いて発表報告され、話しはしぜんに恩恵を受けた乗りものの話合となり、関心が高まり「いききのせいかつ」の学習が採上げられて全児童の興味がこれに集中している。しかし、それに対する理解の程度範囲は甚だ狭く、且「土地によって方法は違うか。」等は甚だ漠然とした程度である。けれども、本単元に興味をもっている児童は旺盛な求知的想像の心童活動と相まって広く深く学習を進めている。

系 統 （略）

計 画 （略）

環 境

児童数三十八名机の配置は必要により変更

教室環境として地図・一覧表・大黒板・図書類の絵本雑誌・社会科たろう等の用意

本時の位置

西尾駅しらべのせいりはっぴょう

過 程

（十時三十分）お入り→礼→着席

では今から西尾駅しらべのお話しをしましょう。

まず話す人聞く人の注意することはどんな事でしょう

では議長は席について下さい。

（指導者として必要な事のみ発言し全ては児童に委す）

（学習順序）

西尾駅

乗った人 いったところと人数
おりた人 駅からどこへいったか。とその人数
駅の人のしごとを知る
貨物 どんなものがどれくらい
送るのか、きたのか（予想）

名鉄バス

ゆく先とおりた人
乗った人おりた人 いったところと人数

マーケット

どんな店があったか。している物
なぜこんなところにあるのか
だれがかうのか

（まとめ感想発表）

西尾駅というものをどう思いましたか—絵地図について気のついた事を話し合う

（駅の機能働きを知らせる）

（今の授業の反省とつぎへの展開をする）

たいへんしんけんによく出来ました
しらべてきた事をどうしますか
では之で終わります

（立つ—礼—おあそび）

備 考

授業前に机をコの字型にしておく
必要なことを小黒板に記入する

協議会では次のことが話し合われた。

一、学校長挨拶

全職員一致して努力 特に学校の社会化と全村教育の強化を図り PTA 組織を運営

二、八ッ面校の発表

単元とはどんなものか
実力をつけるのにどうしているか
机の並べ方はどんなのがいいか
学校自治はどんなふうに行っているか

(3) 第3回西三河地区実験学校協議会

昭和23年10月8日矢作南小学校に於いて第3回西三地区研究協議会が開催された。

そこでの特設授業の指導案は次のようであった。

特設授業指導案

第六学年二組体育科学習指導案（指導者 濱島）

教 材 結核の初感染時の注意

教材のねらい

我が国の結核患者は二百万人以上といわれ年々二十万人以上の死亡者を出している
欧米諸国が結核早期発見とその予防に万善をつくし死亡率がぐんぐん低下している
のに我が国では、戦争中から戦後にかけて死亡率は上昇をたどり欧米の三～七倍の率
を示している。結核こそ再建日本の敵であると言っても過言ではないだろう

そしてその多くが結核患者と診断されてから驚き且あわてて治療するといういわゆる
手おくれに原因があると思うとき、児童に結核初感染と予防に対する正しい知識を
与え結核患者という不幸な人生を辿らしめないようにしたいと思う

指導方法

- 1 肺病についての話し合い
- 2 「いつあなたは結核になったか」の幻燈を写しつつ説明問答による
- 3 感想発表 質疑応答

指導内容

- 1 結核は人類歴史と共にある古い病氣である
- 2 我が国における結核患者
- 3 日本と欧米の結核死亡率比較
- 4 ツベルクリン反応
- 5 初感染 この間に運命がきまる
- 6 感染中の注意
- 7 日本再建と結核

備 考

- 1 他教科との関連
理科 私たちのからだ
家庭科 健康な日常生活
社会科 どうすれば安全な生活が出来るか
- 2 本教材は幻とうの内容からみて教師中心にすすめることとした

協議会では次のことが話し合われた。

- ・ 矢作南小の学校経営の道標。
- ・ 健康教育の方途。
- ・ 学校美化の現状。

・養護学級の経営。

(4) 第4回西三河地区実験学校協議会

昭和23年11月22日足助小学校に於いて第4回西三地区研究協議会が開催された。
研究授業の学習指導案は次のようであった。

研究学習指導案

第二学年一組国語科学習指導案 (指導者 澤田)

題 材 「こくご」四 六ことばあそび

目 標 この教材は題目が示すように「ことばあそび」をさせることによって発音訓練及び日本語の面白さを味はせ更に進んで「たくさんこしらえておきましょう」「考えました」とあるようにあるものを集めると共に、自分達で作る考えるといふように、創作的に導くようにして行きたい。

題 材 観 (略)

資 料 漢字表 一年国語(二) 考へ物プリント 二年国語(四)

単元作業段階(区分)

第一時 導入と概観(本時)

第二時 早口あそび

第三時 かいぶんあそび

第四時 なぞあそび

第五時 ふくびきあそび

第六時 まとめ

本時の作業段階

1 導入「考えもの」

2 教科書のよみ(自由讀)

3 内容の話合い

4 新出文字の取扱

5 指名讀

6 考えもの作業(プリント)

指導上の注意

1 子供の作ったものは、どんなものでもみとめてやって、又時には少し手を入れてやって、背面黑板等にかいておくようにする。これが創作を奨励する大きな力となる。

2 組み分けして集める時は、みんなが協同してはげむように導く。

3 組の発表の時は、発表の仕方(小黑板等を使うこと)等の工夫も子供にや

らせる。聞く方の態度にも十分に指導を加える。

反 省
御 高 評

研究協議題は次のようであった。

一 校長会

- 1 教育形態について 米津校
- 2 実験校の経費について 矢作南校
- 3 視察旅行について 矢作南校
- 4 PTA の運営について 八ツ面校

二 二年会

- 1 遊びと学習について 八ツ面校 矢作南校
- 2 独自学習の具体的指導法について 米津校
- 3 単元構成について 矢作南校
- 4 リズム教育について 平坂中校
- 5 用具教材としての算数教材の取扱い 平坂中校
- 6 劣等生指導について 矢作南校
- 7 能力差と指導について 拳母中校
- 8 その他 矢作南校

(5) 第5回西三河地区実験学校協議会

昭和23年12月7日平坂中部小学校に於いて第5回西三地区研究協議会が開催された。特設授業の指導案は次のようであった。

第五学年西組図画学習指導案（指導者 鈴木）

題 材 人物のクロッキーデザイン（一時間完了）

目 的 コンテ使用によってクロッキー並にデッサンを製作して画図表現を練り創作を喜ばせる

製作経過指導

1 基礎練習 2分

2 クロッキー表現 15分 A学級一点 B職員一点 C参観者一点

3 デッサン製作 20分 イ木彫り一点 ロ学友一点

作品処理 児童による選出批評 3分

備 考 画図即ちムーブメン

協議会では次のことが話し合われた。

- ・民主教育の徹底と学校自治態勢の確立
- ・体育の振興
- ・児童中心の教育実現を期す。
- ・学校の社会化（家庭学校社会の一体化）。

(6) 第6回西三河地区実験学校協議会

昭和24年2月5日第6回西三地区研究協議会は幸田小学校で開催された。特設授業の指導案は次のようであった。

第四学年音楽学習指導案		(指導者 荒川)
題 材	村のかじや	4/5
目 標	へ長調二拍子のはぎれよい唱謠になれさせ併せて器楽指導を行い合奏による表現の技法を習得させる	
區 分	第一時	歌唱指導 階名唱 旋律リズムの打ち方
	第二時	歌唱指導 及 琴の指導
	第三時	旋律器楽の練習 (主に木琴)
	第四時	合奏指導
	第五時	合奏練習 鑑賞
準 備	合奏總譜	簡易楽器数種
過 程	1 既習教材	きたえる足
	2 基礎練習	音階練習
	3 歌唱練習	はぎれよく
	4 合奏指導	リズム練習
		總譜による練習 1リズム楽器 2旋律楽器 3リズム及旋律楽器を合わせて
	5 次時予告	
御 高 評		

研究協議会は次のことが話し合われた。

- ・理科の学習指導に於いて教科書の取扱いについて。
- ・理科学習で教科書の不足備品の不十分の場合の対策方法。
- ・一番活力ある4年として如何に児童に自治活動をさせたらよいか。
- ・自治活動がうまく出来ない。
- ・自発的学習の指導をどうしたらよいか。
- ・グループ学習の授業をどうしたらよいか。
- ・自学自習の態度

- ・ 討議学習の在り方
 - ・ 発表の訓練と聴取の訓練
 - ・ 討議学習における教師の立場

(7) 第7回西三河地区実験学校協議会

昭和24年2月26日六名小学校に於いて第7回西三地区研究協議会（実験学校校長代理研究協議会）が開催された。授業は一般公開授業しかなく、指導案の添付はなかった。研究協議会は、次のようなことが話し合われた。

1 自己紹介

2 一般公開授業感想発表

子供がのびのびとしている 自発的に活動している

3 研究協議

- ・ 基礎教科と中心教科との時間割の配当如何
附小・基礎30、中心40、□□20、その他10
- ・ 経験教科課程を主張する進歩派と教科課程を主張する本質派との争いについて
（米国に於ける、日本に於ける）
- ・ ガイダンスについて
- ・ 本校教育目標の手続きについて

(8) 第8回西三河地区実験学校協議会

昭和24年3月2日米津小学校に於いて第8回西三地区研究協議会が開催された。本協議会だけ資料がない。ただ、海後勝雄の講演が行われたという記録が残っている。

(9) 第9回西三河地区実験学校協議会

昭和24年3月3日梅園小学校に於いて第9回西三地区研究協議会が開催された。指定授業の指導案は次のようであった。

指定授業指導案
第六学年一組社会科学習指導案（指導者 横井）
題 材 日本と外国（七十二時間配当）（世界めぐりをしよう9/22）
題材に対する必要と欲求
苦しい戦争は家を焼き、愛を焼きはらって終った。子供等は衣食住のすべてに敗戦のみじめな姿を自ら痛切に体験した。敗戦の原因を追及していく中に過去の日本のようすを知る事が出来た。それは外国のようすを少しも知らず唯我欲のみにはしっていたこと…友愛の心があれば…との結論を見出し

	<p>た。そして眼前にさし出されたララ物質給食の品々をながめ、はじめて友情の尊さを知った。外国のお友達に会いたい。外国のようすを知りたい、の氣持ちは日に日にわき上がり世界に仲間入り出来る日を待ち切れず、参考書を集め、地図を求めて世界めぐりをする事になった。</p>												
<p>目的</p>	<p>憧れと、空想を抱いて世界の國々をめぐり、地名を知り、人、風土を想像し併せて産物を研究する。 ハワイの島めぐりをしながら風土の美しさを知り、常夏の國の氣候について話し合う。</p>												
<p>準備</p>	<p>世界地図、ハワイ諸島地図、その他</p>												
<p>指導課程</p>	<p>(1) 導入 ハワイへ出発しよう（出発の際の光景を想像しながら）</p> <p>(2) 展開 船の中のようす 日程を理により算出（30ノットの汽船） ハワイ（オアフ島）の港ホノルルに着く 色々な人種のハワイ…ハワイに住む人々 オアフ島の産業を中心としての島めぐり 住みよい氣候について ハワイの歴史</p> <p>(3) 終結 発表についての感想を話し合う 日本と関係の深いハワイ 次の予定コースについて</p>												
<p>備考</p>	<p>「世界めぐりをしよう」の全体計畫</p> <table border="0"> <tr> <td>一世界めぐりの地図を畫く（産物、航路、空路、港）</td> <td>六時間</td> </tr> <tr> <td>一グループ毎に世界めぐりの計畫を立てる</td> <td>二時間</td> </tr> <tr> <td>一ハワイ、アメリカめぐり発表</td> <td>三時間（本時1/3）</td> </tr> <tr> <td>一南洋めぐり</td> <td>三時間</td> </tr> <tr> <td>一欧州めぐり</td> <td>六時間</td> </tr> <tr> <td>一その他の國々めぐり</td> <td>二時間</td> </tr> </table>	一世界めぐりの地図を畫く（産物、航路、空路、港）	六時間	一グループ毎に世界めぐりの計畫を立てる	二時間	一ハワイ、アメリカめぐり発表	三時間（本時1/3）	一南洋めぐり	三時間	一欧州めぐり	六時間	一その他の國々めぐり	二時間
一世界めぐりの地図を畫く（産物、航路、空路、港）	六時間												
一グループ毎に世界めぐりの計畫を立てる	二時間												
一ハワイ、アメリカめぐり発表	三時間（本時1/3）												
一南洋めぐり	三時間												
一欧州めぐり	六時間												
一その他の國々めぐり	二時間												

研究協議会では以下のことについて協議された。

一、組織上の問題

- ・今の組織はどうなっているか、どうしたらよいか。（会員、役員、会費等）

- ・ 学校 PTA と学級 PTA の有機的関連は
- ・ 組織する上に困難を感じている点、その打開策は
- ・ その他

一、運営上の問題

- ・ どんな予算で、どんな仕事をして居るか
- ・ 部制とその活動状況は如何に
- ・ 将来どんな風に運営していくか
- ・ 現在の隘路は

其他

4 昭和24年度以降の地区実験学校協議会について

昭和24年度地区協議会の事業計画についての打合会は、昭和24年4月19日に開かれ、実験学校の校長10名が参会した。打合せ事項は次のようなものであった¹¹⁾。

①各学校の研究会に出席すること。

②研究会の予定

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 6月六名小 | 地域社会学校の教育計画 |
| 10月矢作南小 | 養護教育と新しいカリキュラム |
| 11月附属小 | 生活単元設定の基礎調査 |
| 11月足助小 | P・T・Aの運営について |
| 11月梅園小 | 新カリキュラムに於ける基礎学習・カリキュラムの構成・ガイダンス |
| 12月米津小 | 総合教科課程の実践 |
| 12月中央小 | 新カリキュラムの研究 |
| 1月平坂中部小 | 学習の自主化について |
| 2月八ツ面小 | 新しいカリキュラムについて |
| 3月幸田小 | 保健教育経営について |

③学校長の視察について

以上のような事業計画にそって、実験学校はそれぞれ研究会を開催していくのである。昭和24年度最後の西三河地区実験学校打合会は、昭和25年3月15日梅園小学校で、愛知県教育委員会佐藤指導主事も出席して開かれた。この時期から実験学校存続問題が論議されるようになった。また、地区協議会の組織も昭和25年度からは3ブロックに分かれて研究するといったように、以前とは異なる体制で出発することになった。このことは、各実験学校ができるだけ自由に研究を進めていくための一つの方策であった。事実、昭和25年度において協議会を各ブロック1回しか開催しなかったのである。実験学校協議会とし

て、組織的にそれぞれの研究を持ち寄って発表していくというあり方から、各校が実験学校協議会にとらわれず独自にさまざまな指定研究や校内研究を発表していくといった方向に転換していくのである。

愛知県実験学校協議会は、昭和25年7月より、愛知県実験学校協会として新しく出発していくことになるのであるが、実験学校は県教育委員会の方針に基づいて廃止と決まり、県実験学校協会も自然解散となった。しかし実験学校を中心として多くの特色のある学校が県下各地域に誕生し、新教育を実践していくのであった。こうした西三河地区新教育実践の推進の原動力となったのは、とりわけ昭和23年度西三河地区実験学校協議会での授業実践だったのではないか。学習指導要領による新しい教育内容をふまえながら、研究協議会の会場校は全ての教師が授業を公開していった。ここに一人ひとりの教師が新教育を具現化していこうとする真摯な姿を見ることが出来るのである。

註

- 1) 拙稿「愛知県における戦後新教育実践の展開—実験学校協議会の役割を中心に—」東海学院大学短期大学部紀要第41号、2015年3月 pp. 39-50
- 2) 例えば、近畿地方では、近畿新教育実験学校協会が、昭和22年1月に発足した。
- 3) 岡崎市立梅園小、同六名小、額田郡幸田小、碧海郡矢作南小、同米津小、幡豆郡八ッ面小、同西尾小、西加茂郡中央小、東加茂郡足助小、愛知第二師範学校附属小
- 4) 岡崎市立根石小、額田郡大樹寺小、碧南市立棚尾小、同知立小、幡豆郡平坂中部小、西加茂郡野見小、東加茂郡小渡小
- 5) 6) 岡崎市立六名小学校『昭和二十二年六月以降トライ・アウト・スクール研究協議会記録』昭和22年6月起
- 7) 「西三地区実験学校研究協議会記録」（六名小学校前掲）
- 8) 9) 「二月一二日地区別協議会記録」（六名小学校前掲）
- 10) 「昭和二三年度地区協議会記録」（六名小学校前掲）より作成。
- 11) 「実験学校打合せ記録」（六名小学校前掲）